

# 平成22年度 学校自己評価シート (さいたま市立大宮西高等学校)

目指す学校像	確かな学力と豊かな人間性を育成して、自己実現を図る。
重点目標	1 生徒が学力の向上と定着を実感できる学習指導の充実 2 心身ともに健康でけじめある生活を送れる生徒の育成 3 生徒自ら進路を選択し、その実現に向けて努力する姿勢の確立 4 開かれた学校作りの推進 (情報発信の充実と活用)

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標					年度評価(3月22日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	授業評価や授業研究を通して、授業の工夫改善に努めている。生徒一人一人は進路実現を目標に努力しているが、多くの生徒は、授業以外の学習時間の不足を自覚している。さらに、落ち着いて授業が行えるよう学校環境全般の整備が必要である。 生徒の学習意欲と学習習慣を一層向上させるための充実した学習指導を継続していく必要がある。	学力向上のための授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートを活用した授業改善</li> <li>学力向上委員会と各教科とで連携した学習指導法や授業の研究、研修会等における情報の提供と共有(分かる授業の実践及び学び合いや共有化の推進)</li> <li>授業の活性化と主体的な学習態度の育成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>チャイム始業</li> </ul> </li> <li>落ち着いて取り組める授業・学習環境づくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>教室の整理整頓</li> <li>朝や放課後等に、生徒が集中して自主学習に専念できる環境の検討</li> </ul> </li> <li>理解度に応じた補習体制、個別指導の充実</li> <li>家庭学習に対する保護者への意識啓発</li> <li>新教育課程の編成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲をもって主体的に授業に取り組む生徒が増えたか。(生徒の自己評価・授業アンケート)</li> <li>生徒の学力は向上したか。</li> <li>生徒の学習時間は増えたか。</li> <li>授業研究や研修会の成果を、授業の工夫、改善に生かされたか。</li> <li>校内が美しく保たれているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートを実施し、個々の授業に対する生徒の意識を各授業担当者に伝達した。</li> <li>家庭学習時間は若干の増加傾向も見られるが、まだ十分とは言えない。</li> <li>各教科とも教科会を通じて授業上の課題を共有化し、解決に努めた。また小テスト等を実施し知識・理解の定着を図っている。</li> <li>環境保健部が中心となり各学年と連携して学習環境の整美に向けた計画・指導を行った。</li> <li>教育課程については教育課程委員会を中心に24年度の決定及び25年度に向けた小委員会を発足させ、研究検討を始めた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業密度を向上させる。</li> <li>*生徒の教室移動の迅速化とチャイム始業</li> <li>生徒の基礎学力向上のためには今一層の家庭学習時間の増加が求められる。</li> <li>*家庭学習の意義を自覚させる指導</li> <li>*家庭学習課題の具体的な指導</li> <li>学習環境を更に整備向上させる。</li> <li>*教室整美の徹底</li> <li>*放課後学習スペースの整備・検討</li> <li>平成25年度の教育課程を編成する。</li> <li>教育課程委員会の有効な運営(小委員会等の編成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートを実施しているのは、良いことである。実施時期・記入方法・フィードバック方法など、工夫すると更に効果が上がると思われる。</li> <li>家庭学習の定着は、目的意識を持たせ、必要性について丁寧に説明をするとよいと思われる。</li> <li>放課後、学習スペースを分け、集中して勉強できる場所があると良い。</li> </ul>
2	頭髪服装の指導や遅刻指導などを継続している。挨拶などの礼儀は良好であるが、生活規律の維持、向上には今後も粘り強い指導が必要である。同時に、生徒の心身にも配慮した指導が求められている。 豊かな人間性の育成のためにも、教育活動全般を通して人間関係作りの経験を積ませる必要がある。	豊かな人間関係作りと生徒指導の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>けじめのある生活を送る指導                             <ul style="list-style-type: none"> <li>*時間を守らせる指導</li> <li>*規則を守らせる指導</li> <li>*三橋(3)交差点を軸とした交通安全指導の充実</li> </ul> </li> <li>心身ともに健康な生徒育成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>*個別指導の充実</li> <li>*家庭、校内分掌・スクールカウンセラー、関係機関の連携による生徒指導</li> </ul> </li> <li>豊かな人間関係の育成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>*学校行事、部活動の活性化と充実</li> <li>*人間関係作りの経験を積ませる機会の設定</li> <li>*国際感覚のさらなる育成(国際交流事業)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻数が減少したか。</li> <li>問題行動が減少したか。</li> <li>生徒の心身の健康について、家庭、関係機関との連携を深められたか。</li> <li>交通安全の意識が向上したか。</li> <li>学校行事や部活動が活性化したか。(部活動加入率、活動状況調査)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>頭髪や服装の乱れが著しい者や遅刻の多い生徒、授業態度の芳しくない生徒に関しては学年団が中心となって家庭との連絡を密に行い、改善に努めた。問題行動は前年度に比べ減少している。</li> <li>心身の不調に悩む生徒については校内分掌・家庭・スクールカウンセラー・外部機関の連携のもと生徒指導を行った。また各学期末に特別支援教育委員会を開き学年間の情報共有を行った。</li> <li>学校行事や部活動を通して、生徒の自発的な活動を促進した。</li> <li>夏季オーストラリア派遣事業では生徒17名が参加、欧州からの留学生も2名受け入れた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導に関する学校と家庭との指導目標と指導基準の共有化を強化する。</li> <li>*本校の生徒指導の取り組みを定期的に発信</li> <li>近隣の小・中・高等学校や地域住民との協力・連携を更に深める。</li> <li>登下校中における交通マナーの意識を更に向上させる。</li> <li>課題を抱える生徒に対して学習支援の視点を強化する。</li> <li>*特別支援教育校内委員会からの情報発信</li> <li>リーダーシップを執れる生徒を育成・増加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>頭髪服装指導は、悪くなると、地域の方々によくないイメージを与えてしまうのできちんとしたほうがよい。</li> <li>三橋(3)交差点で、指導員の方の立哨指導は継続すべきである。</li> <li>生徒たちが生き生きと生活し、良い伝統が引き継がれている学校という印象がある。大切にしたい。</li> </ul>
3	進路行事をとおして進路意識は学年を追って年々向上している。そして、多くの生徒が進路実現に向け、よく考え準備している。しかし、進路準備のスタートが多少遅れる生徒や進路先を安易に決めている生徒も一部見受けられる。また、校外模試等を通して一般受験に対する意識も向上させることが必要である。	満足できる進路先の発見とその実現に向けた指導の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒個々に応じた進路意識の向上のための面談</li> <li>進路行事、総学におけるガイダンスなどの活用</li> <li>「進路の手引き」や各種資料の整備等、有効で適切な進路情報の提供</li> <li>大学、短大、専門学校、企業等との密接な連携</li> <li>学習意欲を喚起し、補習・課題テスト・実力テスト等の実施</li> <li>第一志望の実現に向けた指導と共に大学見学や進路セミナーなど学年に応じた緻密な指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談・進路行事等を通じて、生徒の進路意識を引き出すことができたか。</li> <li>進路を考えるための正確な情報や機会を提供できたか。</li> <li>ニート・フリーター対策は図れたか。</li> <li>様々な生徒が各自の志望する進路を選択できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年ともきめ細かい面談指導や卒業生との懇談会により進路意識が高まり、進路室での進路相談件数が増加した。</li> <li>1学年のキャリア教育、2学年のオープンキャンパス参加指導を通して、自己実現に向けた職業と学問分野の選択指導を行った。また3学年に対しては個別に学校進学指導を行った。</li> <li>校内での模擬試験を積極的に実施した。平日の各教科の補習に加え、土曜日には外部講師を招き英語・数学2教科の進学指導を実施し、一般受験を目指す生徒の育成に着手した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年団と進路指導部との連携を強化する。</li> <li>*迅速かつ適切な進路情報を生徒に提供する</li> <li>*AO入試や推薦入試に対する適切な受験指導の実施</li> <li>参加しやすい土曜補習講座の環境づくりを目指す。</li> <li>*開講講座の弾力的な開設</li> <li>*部活動との調和の取れた講座設定の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する卒業生との懇談会など、先輩から刺激を受けることが多く、次年度も継続をして欲しい。</li> <li>土曜補習は、1年生から大学進学を意識を高める点でも効果がある。</li> <li>早朝・放課後の補習、面談など活用できた。教員の負担も大きい、今後も継続して欲しい。</li> </ul>
4	P T A・地域等との連携が深まりつつある。HPの更新などが順調に進められている。メール連絡網への加入率が全校で95%になるなど活用が進んでいる。今後より相互の理解を深めながら具体的な連携を実施することが求められる。	開かれた学校づくりの推進のため情報発信の充実と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開の推進・充実</li> <li>P T A等との連携協力の推進とP T A等の活動充実への支援</li> <li>HP等各種方法による中学校向け情報提供などの充実</li> <li>メール連絡網の活用とメール連絡網の加入率アップ</li> <li>保護者や地域等の意見等の収集とその活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の情報発信の充実がはかれたか。</li> <li>各行事への保護者の参加が増えたか。</li> <li>学校と保護者、地域との連携・協力はすすんだか。</li> <li>保護者、地域等の学校への願いなどが把握できたか。(アンケート等)</li> <li>メール連絡網の加入数と活用件数が増えたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A専門部と連携した各種学校行事・交通安全指導を実施した。</li> <li>P T A、同窓会組織の協力体制による50周年行事に向けた企画立案を開始した。</li> <li>メール連絡網への加入率が1・2学年ではほぼ100%となった。これにより学年(特に修学旅行情報)、各分掌からの連絡・アンケート調査等に利用され、メール連絡網は定着した。</li> <li>学年P T A・懇親会を通し保護者の意識・要望の収集に努め、学年団との意見交換を密に行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>50周年行事を円滑に運営する</li> <li>*P T A、同窓会、地域と連携した進行</li> <li>情報通信機器を活用した学校情報の提供および家庭・地域からの情報収集を行う。</li> <li>*学校から家庭へのメール連絡の拡充</li> <li>*家庭・地域からの要望を収集するシステムの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>50周年に向け、伝統の継承を大切にしていって欲しい。</li> <li>メール連絡網等、保護者への情報発信は、有効である。今後も継続して欲しい。</li> <li>高校から中学校への情報発信は、教員や生徒で行うのも1つの方法である。</li> </ul>

